



「放課後子ども教室」とは、全国の小学校区において、放課後や週末等に小学校の余裕教室などを活用し、地域の方々の力を借りて、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などを行い、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものです。

盛岡市では、「上田ジュニアキャンパス（UJC）」、「渋民放課後子ども教室」、「うれし野こども図書室子ども教室」、「中屋敷公民館子ども教室」、「繋小学校放課後子ども教室」の5つの放課後子ども教室を開設しています。

今回は、読書活動をしながらか放課後を過ごす「中屋敷公民館子ども教室」を紹介します。

『木のこどもだより』名前の由来。

「木と水の都」とよばれる盛岡市において、地域の皆さんの力で子どもたちの心を育み、木々の枝のように伸びやかに育てていければ・・・、という願いを込めました。



中屋敷公民館子ども教室の活動紹介



子ども教室の概要

- ♠ 所在地
中屋敷町自治公民館 うすゆきそう文庫
(盛岡市中屋敷町4-16)
- ♠ 連絡先
019-643-7197 (澤口代表)
- ♠ 対象小学校区
大新小学校区・厨川小学校区
- ♠ 開催日時
毎週木曜日 午後2時から6時まで
- ♠ 主な事業内容
本の貸し出し、おはなしの時間、
読書アドバイス
- ♠ 利用している子どもたちの様子
子どもたちは自由に本を読みながらくつろいで過ごし、スタッフは子どもたちを見守りながら、話を聞いたり、本を読んであげたりしています。



地域文庫（行政以外の団体が設置・運営する身近な図書室）でもあるうすゆきそう文庫には、約3,000冊もの本が並んでいます



教室の特長



地域文庫であり、読み聞かせ事業も行っている「うすゆきそう文庫」が、町内会、子ども会と協力して運営しています。本の貸し出しと読み聞かせ、ストーリーテリング（語り）のほか、「なつよのおはなし会」や「クリスマスおはなし会」の開催、三世代交流行事への参加など、季節ごとの催しもあります。また、近隣の城西児童センターと連携して子どもの「絵本読み講座」を実施しており、修了証をもらった子どもたちは、おはなし会の場で同年代の子に絵本を読んであげています。長年の活動が認められ、「うすゆきそう文庫」は平成26年度に文部科学省の「子どもの読書活動の実践表彰」を受けました。



スタッフが絵本を読んでもくれます。イモリとヤモリって全然違うんだ！



次はストーリーテリング。みんな、どんな登場人物を思い浮かべているのかな？

最初は落ち着かなかった子どもたちも、いつの間にかおはなしに引き込まれ、耳を傾けます。30分ほどの「おはなしのじかん」が終わると、子どもたちは思い思いに過ごします。かるたや折り紙で遊んだり、絵を描いたり、学校の話をしたり。小さな教室の中に、ゆったりとした時間が流れていました。三世代交流行事で餅つきをしたり、クリスマスおはなし会でクッキーを作ったり、ちょっと特別な教室の日もありますよ。



活動の様子

学校が終わると、子どもたちがやってきます。借りた本を返して新しい本を借りていく子、お母さんと一緒に本を広げる子…教室との関わり方は様々です。午後3時半になると「おはなしのじかん」の始まり。スタッフが昔遊びやわらべ歌、絵本の読み聞かせやストーリーテリングをしてくれます。この日は、絵本「イモリとヤモリ」（赤木かん子／作、新潮社）と、ストーリーテリング「ふたりはいつも」（アーノルド・ローベル／作、三木卓／訳、文化出版局）。



子どもたちは教室で思い思いに過ごします



以前に通っていた中学生が顔を出してくれることもあるそうです。日々成長する子どもたちの中で、この教室で過ごした時間が生きているんだなあと感じました。中屋敷公民館子ども教室のみなさん、ありがとうございました。